**令和6年度**

**次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点**

**共同利用公募要領**

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター（以下、センター）は、令和3年度より第三期の教育関係共同利用拠点に認定されています。第三期の課題「次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点」では、令和6年度もセンターをより多くの機関の方々に有効に利用していただくため、共同利用教育活動を募集致します。本公募によって、次年度の利用計画を早い段階で把握・調整し、円滑かつ有効なセンター利用を目指しておりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。本公募は、申請校（機関）の単位を伴う共同利用申請を優先致します。

本公募終了後も、引き続き通常の利用申請は随時受け付けていきますが、**本公募申請を優先的に取り扱う**ため、日程等はご希望に添えない場合があります。

特に、夏季（７月後半－９月）は混雑が予想されますので、現時点で令和6年度にセンターを利用することが決定している場合は、本公募に申請されることをお勧めいたします。

共同利用に応募される際は、センターウェブサイトでセンターの新型コロナウイルス感染症感染防止策と外部利用受入状況をご確認ください。利用の際は、センターの感染防止対策にご協力をお願いします。

本公募は主に以下の3項目について、教育活動支援を行います。また、これ以外の教育活動の提案も受け付け、活動内容に応じた支援を提供しますので、随時ご相談下さい。

**共同利用教育活動**

1. 臨海実習・授業等

大学における臨海実習、授業の一環としておこなう野外活動等の教育活動（実習授業の中の一部でも可能）です。センター施設、設備の提供に加え、ご相談に応じてセンター教員による指導を提供することも可能です。

※ 毎年の拠点実績報告書で他大学利用に関してシラバスのコピー添付が求められる様になったため、実習利用の場合はシラバスへのセンター利用の明記についてご協力をお願いいたします（例：本実習については、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターを利用する）。

1. 卒業論文・修士・博士論文作成のための研究等

指導教員が学生を引率しての利用及び学生のみでの利用、ともに受け付けます。いずれの場合も指導教員による申請が必要です。

1. セミナー、研究集会等

申請方法は②と同様です。

共同利用による施設利用の場合、光熱水道料金等の施設経費、宿泊費はセンター負担とします。実習滞在時の利用者経費は食事提供費（食事関連賄い料を含む）とクリーニング代のみとなる予定です。昨今の原材料費の高騰に伴う経費増大を鑑み、令和5年度より食事提供費（食事関連賄い料を含む）の値上げをしておりますので、どうぞご了承くださいますようお願い致します。また、センター利用時の機器及び消耗品についてはできる限り提供を致します。機器や消耗品を希望される方は、申請書の「3．共同利用の内容、③その他付記する事項」欄に、希望する品目の内訳を具体的にご記入下さい。

**共同利用申請の手続き**

**（１）提出書類**

申請書（様式１）に必要事項を記入し、メールに電子ファイルを添付してお送りください。Faxまたは郵送でも構いません。

**（２）申請書提出期限と採択結果発表**

申請書の提出締切日は、**令和5年12月15日（金）正午**と致します (Fax、郵送の場合も同様とします)。

申請書は、令和6年1月のセンター共同利用協議会にて審査します。採択結果は、**令和6年1月末**にメール（あるいはFax、郵送）にてお知らせする予定です。

**（３）提出先および問い合わせ先**

E-mail: asamushi@grp.tohoku.ac.jp

〒 039-3501 青森県青森市大字浅虫字坂本9番地

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター・事務室

TEL: 017-752-3388

FAX: 017-752-2765

メールにて提出される場合、件名と申請書ファイル名を「**R6公募利用申請（大学名・利用代表者氏名**（複数件申請の場合は通し番号をふってください）**）**」とし、Faxの場合はメールの場合と同様の件名とし、郵送の場合は「**R6公募利用申請書在中**」と記載してください。

**（４）報告書の提出**

申請課題が採択された利用代表者は、教育活動終了後、令和7年3月31日までに報告書（様式2）の提出が必要となります。共同利用の成果を何らかの形で公表する場合には「次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点」を利用した旨を明記し、当該資料の提出をお願いいたします。

**（５）参考：施設所属常駐教員の研究内容および共同利用施設・設備**

|  |  |
| --- | --- |
| **教員** | **研究内容** |
| 熊野　岳　（教授）美濃川　拓哉（准教授）岩﨑　藍子（助教）森田　俊平（助教）福森　啓晶（助教） | 海産無脊椎動物の胚発生学　海産無脊椎動物の進化発生学　海産底生生物の個体群・群集生態学　生殖生物学　軟体動物の系統分類学 |

**利用可能デジタルコンテンツ**

実習室での実習生の密集の回避、事前・事後学習を目的に、センターではデジタルコンテンツ（動画資料など）を用意しております。デジタルコンテンツについては、センター教員にお問い合わせください。

ダイジェスト動画URL：http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/textbooks.html

**本館（研究教育棟）**

学生実習室：通常32名（最大40名）

 実習室設備：淡水・海水流し、生海水、ろ過海水、インキュベーター、冷凍冷蔵庫、ビデオプロジェクター、スクリーン

講義兼会議室：通常24名、ビデオプロジェクター、スクリーン

図書室：生物図鑑等、閲覧及び資料整理用机

潜水準備室：利用には免許およびセンター長の許可が必要（必要機材は各自準備すること）

工作室：作業台、旋盤、グラインダー、電動ドリル等

船舶：うとうIII（9.32 m、300馬力、定員17名）

**機器類**

生物顕微鏡：Nikon E200 (暗視野スライダー付き) 27台、Olympus 正立顕微鏡 4台 (BX41・CX31)、この他、倒立顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡など

実体顕微鏡：Olympus SZ61（透過＋落射照明）26台、Olympus VM（落射照明）19台、Leica S6E（透過＋落射照明）1台、実体顕微鏡用ケーラー照明装置20台

分析・採集機器等：qPCR装置、卓上遠心機**、**高速冷却遠心機、野外採集観察用機器一式（ドレッジ、水中箱メガネ）、実習用タブレット端末 17台

その他の機器についてはご相談ください

**生物飼育施設**

水槽室：生海水、コンクリート製10トン掘り込み水槽1、コンクリート製5トン掘り込み水槽2、FRP水槽6

海水供給設備：ポンプ室、海水槽

**宿泊施設**

宿泊定員（洋室4、和室2、バリアフリー室1）：定員40名

食　堂　：定員38名

その他の設備：シャワー室（6人用1室）・浴室（4人用1室）、トイレ、バリアフリートイレ、洗面所、洗濯機、乾燥機

他に長期滞在者用宿泊棟（洋室2、和室1）

**インターネット**

本館、学生用宿舎（無線LANでのネット接続が可能）

**URL:** http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/index.html

|  |  |
| --- | --- |
| 整理番号 |  |

**令和6年度　次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点
共同利用申請書**

令和　　年　　月　　日

浅虫海洋生物学教育研究センター長　殿

代表者所属機関

職　　名

氏　　名

電話・FAX

メールアドレス

下記により次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点・共同利用を申請します。

記

１．共同利用の詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 教育プログラム名称 |  |
| 新規・継続の別 | 新 規　　　継 続（　　　年度から）　（○を付して下さい） |
| 共同実施項目 | ①実習 ②卒論・修論・博論研究 ③研究集会 ④その他（　　　　　　　）（○を付して下さい。公募要領「共同利用教育活動」参照、複数可）①実習の場合、シラバスへのセンター名称の明記　　　明記した（明記した場合は○を付して下さい、注1、公募要領「共同利用教育活動」参照） |
| 単位の有無 | 単位有り　　　　　単位無し　　（○を付して下さい） |
| センター教員の指導協力（注2） | 　　希望する　　　　　希望しない　（どちらかに○を付し、協力を依頼する教員が決まっている場合は下の氏名リストにも○をお願いします）　　熊野　　美濃川　　岩﨑　　森田　　福森 |
| 実施期間（注3） | 第1希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日）第2希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日）第3希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日） |
| 利用予定者数（注3、4） | 教員　　　　名、学生　　　　名、他（TA等）　　　名、合計　　　　名 |

（注1）実習利用の場合、シラバスへセンター利用の明記をお願いいたします（例：本実習については、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターを利用する）。

（注2）協力を依頼したい教員がいましたら、事前にご連絡をお願いします。

（注3）多人数による利用申請が重複する場合は日程調整をお願いすることがあります。

申請書には利用を希望する日時と、利用者のおおよその人数を必ずお書きください。

（注4）採択後の利用手続き時に、利用者名、性別等、詳細な情報をご連絡いただきます。

３．共同利用の内容（できるだけ具体的かつ簡潔に記入して下さい）

|  |
| --- |
| ①共同利用の目的及び期待される教育効果②同利用の計画・方法（教育目的を達成するための計画、方法、及び共同利用をおこなう必要性等）1. その他付記する事項（実習消耗品、分析機器類の利用、生物研究材料の供給などの希望がありましたらご記入ください）
 |